

花の里づくりの会

第19号会報 2023年5月 発行



第十一回記念樹《平成28年3月植樹》

カラタネオガタマ （撮影：小松賢吉氏）

科：モクレン科 属：モクレン属
和名：カラタネオガタマ
英名：Banana shrub 学名：Magnolia figo
原産地：中国東南部 開花期：5～6月ごろ

原産地である中国では「含笑花」とよばれる。日本では別名として「トウオガタマ」ともよばれ、また花にバナナのような匂いがあるため「バナナノキ」とよばれることもある。

世界各地で観賞用に植栽されており、園芸品種も作出されている。日本では、神社に植えられていることも多い。乾いた寒風を嫌い、日なたから明るい半日陰、やや湿り気のある水はけのよい肥よくな土壌を好む。葉用とされることもある。

ごあいさつ

いつも、花の里づくりの会の活動にご理解とご協力をいただき本当にありがとうございます。この3年間、新型コロナウイルス感染の波が繰り返される中で、何とか会を推進し、花や樹木の植栽を続けてまいりました、そんな中、昨年から今年にかけては、色々な制限が少しずつ緩和されて行事なども行われるようになり、新羽の町中を歩く人の姿も増えて来たように感じます。心の不安が少しずつ収まってきたこともあるでしょう。人々の動きも活発で自由になって来ました。この調子で、花を愛でる心も高まっていくことを願うところです。

私たちも、会を推進する立場として、応援してくださる会員の皆様や新羽に訪れていただく方々のことを思い、役員会などの開催や事業の推進等、制限のある中でも何とか継続して活動してきた数年間でした。しかし、これからは様々な活動を通常の状態に戻しながら、花を愛する皆様のため、新羽の発展のために活動を更に進めていければと思います。今までの寺院や神社への花の植栽活動、新羽丘陵公園への子どもたちの記念植樹の活動とともに、昨年からは、新羽未来の会への協力や地域の歩道の美化にも取り組んでまいりました。また、今年度からは、新羽高校の地域美化活動への協力も再開いたしました。

来年は、花の里づくりの会も20周年を迎えることとなります。このまま世の中が落ち着いて、この町で皆さんの多くの笑顔に出会えることを願って、本会も活動を発展させていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

花の里づくりの会 会長 吉田 厚雄



2022年度の植栽及び事業実績

- ◆新羽丘陵公園◆ 丘陵公園の花壇の植栽に補助
- ◆県立新羽高等学校◆ 通学路の美化整備の花の苗の協力 5月、11月
- ◆市立新羽小学校◆ 卒業記念樹 紅花まんさく
- ◆光明寺◆ アガパンサツ紫 50 球・白 50 球、ヒガンバナ赤 300 球、
キツネノカミソリ 300 球、ニホンスイセン 200 球、フリージア黄 200 球、
シモツケ 5 株、コデマリ 5 株
- ◆西方寺◆ ヒガンバナ白 100 球・黄 200 球、秋海棠 赤 5 本・白 5 本、
ミモザアカシヤ 1 本
- ◆善教寺◆ ドウダンツツジ 10 株、クルメツツジ 10 株、ヤマモミジ 5 本、椿 5 本
- ◆蓮華寺◆ ユキヤナギ 3 本、酔芙蓉 2 本、彼岸花 黄 15 株、・赤 15 株
- ◆新羽の未来をつくる会◆ 春・秋 4 ケース提供
- ◆新羽ケアプラザ◆ マリーゴールド
- ◆その他◆ 枯れた木などの補植

2023年度の植栽及び事業計画

- ◆新羽丘陵公園◆ 丘陵公園の花壇の植栽に補助
- ◆県立新羽高等学校◆ 通学路の美化整備の花の苗の協力
- ◆市立新羽小学校 卒業記念樹◆ 未定 1 本
- ◆光明寺◆ ユキヤナギ 5 本、タマスダレ 100 本、ニホンスイセン 100 球、
ギンバイカ 3 本、ヒメヒオウギ 200 株、ヤマユリ 15 球、
ヒガンバナ赤 100 株
- ◆西方寺◆ ヒガンバナ黄 300 球・白 100 球・赤 300 球・ピンク 500 株、
ミモザ 1 本、アザレア椿 1 本、ミツマタ 1 本、クリスマスローズ 10 本
- ◆善教寺◆ ドウダンツツジ 10 株、クルメツツジ 10 株、ヤマモミジ 5 本
- ◆蓮華寺◆ ドウダンツツジ 5 株、ユキヤナギ 3 本
- ◆専念寺◆ チューリップ 10 種 × 100 株、パンジー 200 株、八重桜 1 本、サザンカ 5 本
- ◆杉山神社◆ 必要があれば植える
- ◆新羽の未来をつくる会◆ 春・秋 花苗提供
- ◆新羽ケアプラザ◆ マリーゴールド
- ◆その他◆ 枯れた木などの補植

蓮華寺

横浜市港北区新羽町3952番地



桜



日本水仙



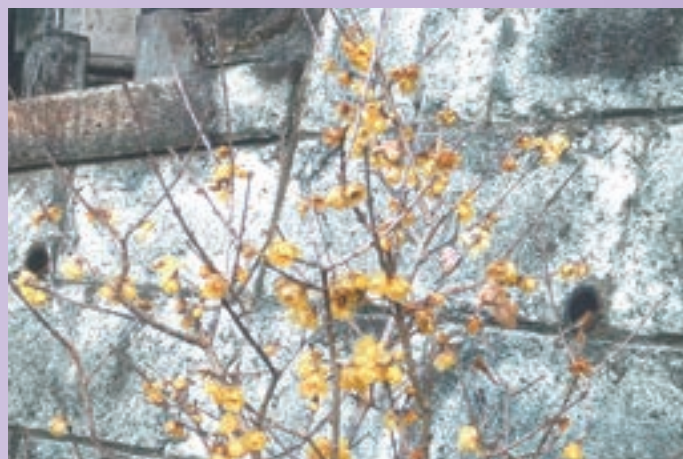
雪柳



紫陽花



チューリップ



ロウバイ

専念寺

横浜市港北区新羽町1578番地
TEL (045) 531-1518



河津桜 2月



しだれ桜 3月

梅 2月

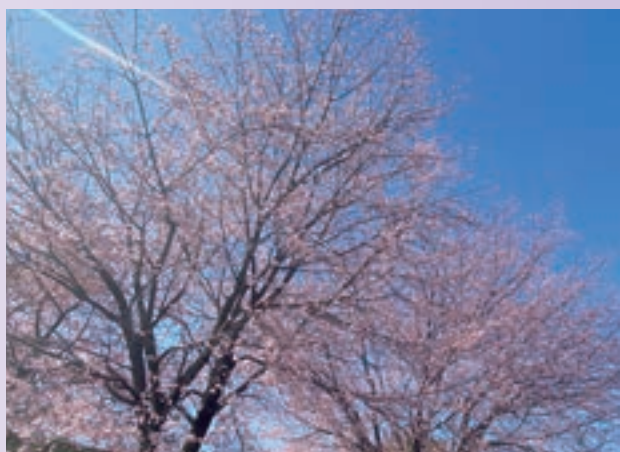


藤 4月

桃・桜 3月



桃・もくれん 3月



彼岸桜 3月



よこはま桜 3月

善教寺

横浜市港北区新羽町 2396番地
TEL (045) 541-7684



スイセン 2月



はからめ 2月



ひまわり 8月

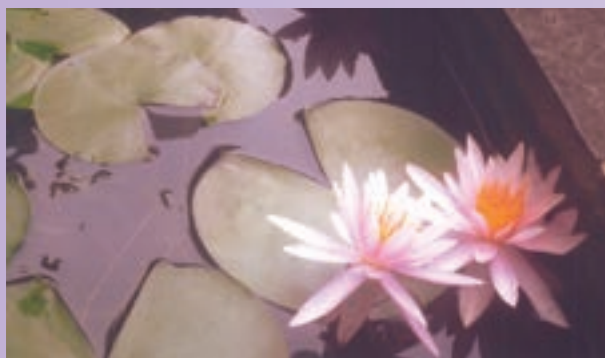


マリーゴールド 8月



梅 2月

スイレン



8月

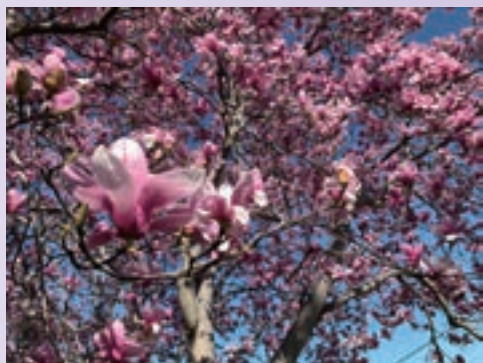


西方寺

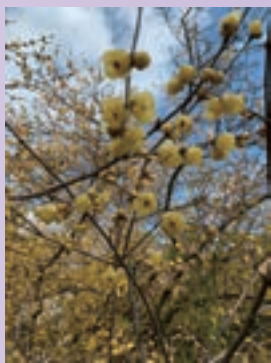
横浜市港北区新羽町 2586番地

TEL (045) 531-2370

モクレン 3月



蠟梅 1月



中日桜 3月



椿 3月



桃 3月



ミモザ 3月



クリスマスローズ 3月



萩 9月



彼岸花 9月



アザレア椿 7月



光明寺

横浜市港北区新羽町 3990番地

TEL (045) 591-0590



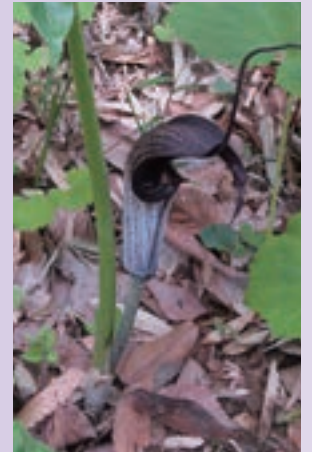
シャクナゲ 4月



アジサイ 6月



カイドウ 4月



ウラシマソウ 5月



桜 3～4月



ボタン 5月



シャクヤク 5月



シャクナゲ・桜 4月



キンラン 5月



ユキヤナギ・しだれ桜 4月

新羽丘陵公園での
卒業記念植樹

1

組



No. _____

紅花まんさくのように

私たち六年生は卒業を記念し、地域の方と協力して、紅花まんさくという木を植えさせていただきました。紅花まんさくは、今後土などの栄養をたくさん吸収し、すくすくと成長していくと思います。そんな紅花まんさくのように私達はいろんな知識を吸収し、紅花まんさくと共にすくすく成長していけたらいいな、と私は思います。このような機会をいただき、ありがとうございます。

大谷 美月

新羽丘陵公園での
卒業記念植樹

2組

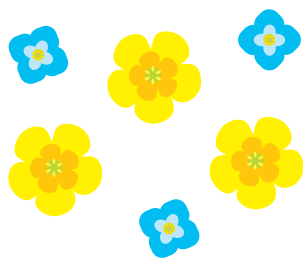


No. _____

「不思議な力」

成澤 宗清

僕は植えた木の名札作りを担当しました。
植樹当日、地域の方々に見てもらうこと、か、
こい名札だね」とたくさんほめてもらえて
うれしか、たです。僕らの植えた「紅花まん
さく」という花には「不思議な力」という花
言葉があります。この花言葉のように僕らが
困っている時には力を貸してくれるのではな
いかと僕は思います。困ったときや息づま、
た時にはこの花を思い出して頑張りたいです。



感謝と希望の記念植樹

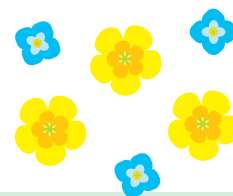
新羽小学校 校長 佐藤 恵子

2月21日、卒業を間近に控えた6年生と、記念植樹のため新羽丘陵公園を訪れました。丘陵公園には新羽小学校の歴代の卒業生が植えた記念樹が、子どもたちの成長と人々の暮らしを見守っています。訪れた2月21日には、昨年度植えたしだれ梅が満開を迎え、後輩たちの記念植樹に花を添えていました。

新羽小6年生にとって丘陵公園で取り組む最後の学習活動が卒業記念植樹です。6年間たくさんお世話になった新羽丘陵公園は、大切な学習の場でした。季節の移り変わりを感じたり地域作りについて思いを巡らせたりと、教室ではできない学びがたくさんありました。小学校生活の最後に記念植樹をして、感謝の気持ちと卒業の節目を一人ひとりの心に刻みます。

今年度の6年生は「紅花まんさく」を記念樹として選びました。「紅花まんさく」は、病害虫に強い丈夫な花木で、暖かくなった4月ごろに濃いピンクの花を咲かせます。「まんさくがたくさん花をつけるとその年は豊作満作（万作）になる」とも言われ、その漢字をあて「万作」と表記される場合があります。色鮮やかに咲き誇り、人々に幸せを呼ぶ花、そんな素敵なた花木を選んだ卒業生の誰もが、これから生きていくそれぞれの場所で、周囲に光を注ぎ喜びを与える人であってほしいと願います。

花の里づくりの会に代表される新羽の緑あふれるまちづくりには、人に寄り添う温かな風土と住民総出の尊い子育て文化が感じられます。記念植樹は、そのようなまちづくりの取り組みの一つであり、毎年6年生が参加させていただいていることに心から感謝いたします。ご尽力いただきました花の里づくりの会、新羽丘陵公園愛護会をはじめ、関係機関の皆様、地域の皆様に感謝申し上げますとともに、これからも卒業生の成長を見守り支えていただきますようお願い申し上げます。



新羽小学校 PTA 代表 橋本 沙友里

今年で18回目を迎える新羽小学校卒業記念植樹が、去る2月21日に新羽丘陵公園にて行われました。本年度は、紅花まんさくの苗木を花の里づくりの会よりいただき、港北区長様、新羽丘陵公園愛護会、港北土木事務所、地域協力者の皆様にお越しいただき、執り行われました。

卒業生たちは、植樹の仕方を教えていただきながら、全員で協力して苗木に土をかけ、丁寧に水をあげ、最後に手作りのプレートを付けました。将来、紅花まんさくがたくさんの花をつけてくれることを願っています。

紅花まんさくは春の訪れを告げる花木です。線香花火がパチパチとはじけたような花がたくさんつく様子の「豊年満作」から命名されたと言われ、「ひらめき」や「幸福の再来」という花言葉があるそうです。

卒業生の皆さんが、将来個々の幸福を胸にこの地を訪れ、成長した記念樹を見て当時を懐かしみ、ふるさとである新羽を誇らしく思ってもらいたいと思います。

このような素敵な場所と記念植樹という貴重な経験をさせていただくお手伝いに当たられました、花のづくりの会、新羽丘陵公園愛護会、港北土木事務所、地域協力者の皆様関係者の皆様に、PTAを代表して心より御礼申し上げます。今後とも、新羽の子どもたちと歴代18種の記念樹を見守り、暖かくご指導いただけたら幸いに存じます。誠にありがとうございました。



港北区長 漆原 順一

新羽小学校卒業記念植樹会の開催、おめでとうございます。

今日を迎えられたのも、花の里づくりの会、新羽丘陵公園愛護会、新羽小学校の皆さんのおかげです。6年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、このような公園作りを続けて頂いている新羽丘陵公園愛護会と地域の皆様には感謝申し上げます。この公園も花や緑にあふれて、新羽地区の美しい風景のひとつとなっています。学校からも季節ごとにいろいろな花が咲き誇っている様子を望めることでしょう。皆さんにとって、この6年間はコロナ禍でできないこともあったでしょうが、畑作りや竹の子掘りなどの様々な経験をする事ができたことと思います。こうした経験ができるのも、日頃より人と人を繋げる取り組みを進めてこられた地域の方々のご尽力によるところが大きいでしょう。卒業しても、またこの思い出の残る公園に来て、自分たちの植樹した木の成長を確認してください。

今日植えたマンサクの樹、正式にはトキワマンサクと言ひ、語源は、真っ先に割く、まず咲く、だといわれています。皆さんの門出にふさわしい樹だと思います。皆さんもこの樹のように、未来に向けて真っ直ぐに成長してくれたらと思います。

最後に、花と緑を愛する大人になってくれることを願い、私のメッセージとさせていただきます。

神奈川県立新羽高等学校敷地内の緑化整備



日頃から、本校の教育活動の推進につきまして、御理解と御協力をいただき厚くお礼申し上げます。

本年度の、5月11日と11月9日に、環境整備委員会の生徒が中心となり、本校敷地内の正門横とロータリー、昇降口付近の緑化整備を行いました。

これも「花の里づくりの会」よりご支援をいただいたおかげであり、この場を借りまして心より感謝申し上げます。

その後は、定期的に水遣りを行い、少しでも長く美しい花が維持できるように大切に育てております。豊富な色彩の花々を見て、本校生徒や来校される方、そして地域の皆様が笑顔で楽しんでいただけると、とても嬉しく思います。

今後も、「花の里づくりの会」の皆様が推進されている緑化活動を本校の教育の一環として位置づけ、地域の皆様とともに、歩んでまいりたいと思いますので、より一層の御理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

神奈川県立新羽高等学校 副校長 重本英生





新羽の未来をつくる会

平成27年に発足した「新羽の未来をつくる会」は新羽町連合町内会と新羽地区社会福祉協議会の後援のもと活動しています。

その活動の一つである高架下のプランターは、「暗い高架下を歩く人の心を明るくしたい」という思いで設置されたものです。花の里づくりの会よりご提供いただく季節のお花を植え、地域のボランティアや学童保育の子どもたちが、水やりや雑草抜きなど、日々お世話をしています。また今年は「第11回港北オープンガーデン」に参加し、より多くの人にプランターのお花を見に来ていただこうと思っています。

「新羽の未来をつくる会」は、これからも四季折々の花が咲き誇る町、夢や希望にあふれる町、子どもたちが大人になって戻ってきたいふるさととして自然あふれる新羽の町づくりを進めてまいりたいと思います。

今後とも皆様のご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



ご挨拶

専念寺 大谷 正 元

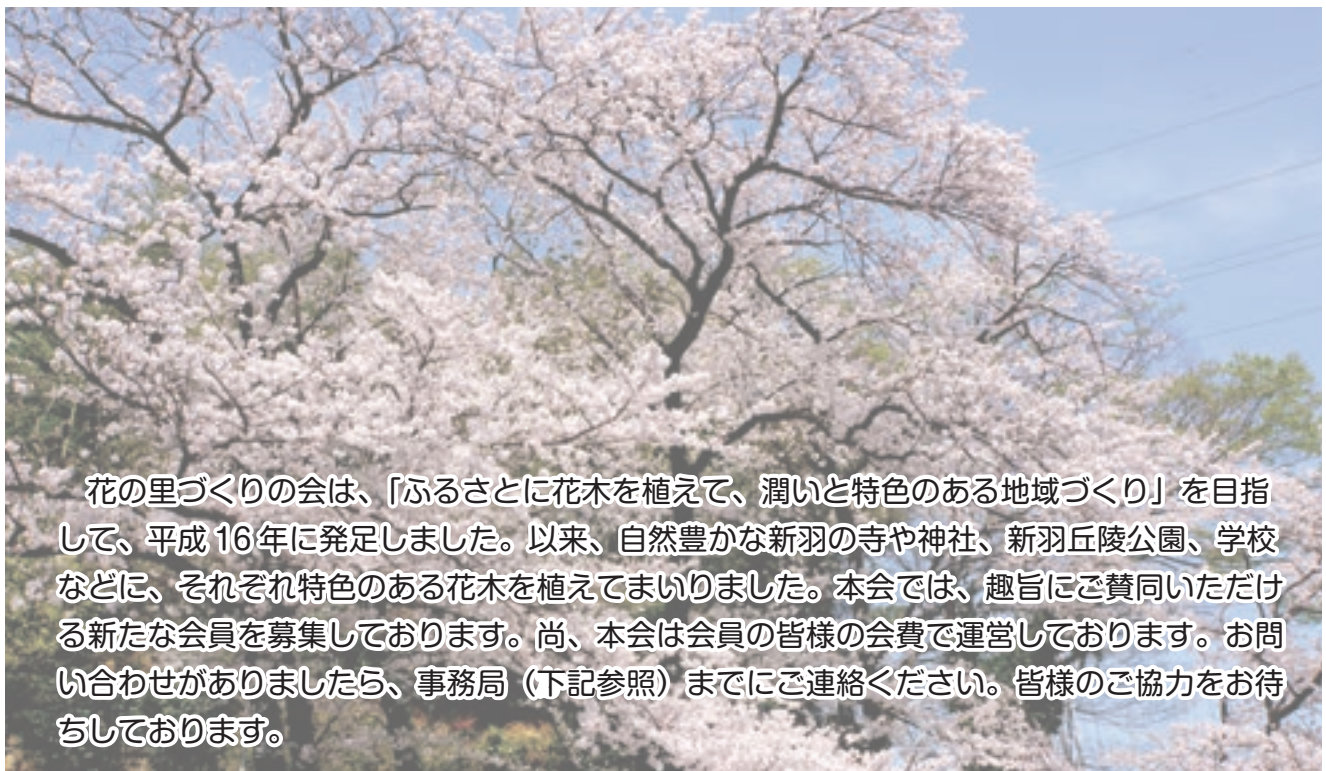
「花を愛でる」普段から何気なく使う言葉である。この「愛でる」とは、改めて探ると美しさを味わい感動する。慈しみ、愛する。かわいがる。感心する。褒める等と出てくる。

当山では、玄関出て直ぐに藤の花、横に目を移せば枝垂れ梅、皐月躑躅、竹林。遠く山側には桜、紅葉などの木々。遠き昔には木瓜の花。幼い頃から四季を肌、目、匂いで大げさにさも表現すれば五感で感じ得る環境にいる。それらを維持管理していくのは並大抵のことではないのだが近頃は他愛も無いこの日常をその所為もあってかとても幸せに感じる。一方では、2020年の新型コロナウイルス感染拡大以降、社会のシステム、人々の生活に大きな影響を及ぼしている。

働き方が変わり、教育の在り方にも大きな変革が迫られている。思うように事が進められず、人と人との交わりコミュニケーションの欠如と挙げたらキリがないといった事態が約3年も続き今もなお継続している。閉ざしがちな沈みがちな心を“花が木々が元気づけてくれる”特効薬とは成り得ないかもしれませんが当会「花の里づくりの会」が少しでも皆さんの心の支え一助「花を愛でる」些細な幸せの伝播となる様にこれからも花を植え木々を整え管理して皆さんをお迎えします。心身共に益々健やかに明るく、正しく、仲良く過ごして参りましょう。

結びに、関係各所皆様、今後ともどうかご理解ご支援賜りますようお願い申し上げます。

合 掌



花の里づくりの会は、「ふるさとに花木を植えて、潤いと特色のある地域づくり」を目指して、平成16年に発足しました。以来、自然豊かな新羽の寺や神社、新羽丘陵公園、学校などに、それぞれ特色のある花木を植えてまいりました。本会では、趣旨にご賛同いただける新たな会員を募集しております。尚、本会は会員の皆様の会費で運営しております。お問い合わせがありましたら、事務局（下記参照）までにご連絡ください。皆様のご協力をお待ちしております。

花の里づくりの会 会報第19号 2023年5月発行
発行者／花の里づくりの会 会長 吉田 厚雄
お問合せ先／事務局 栗原 稔 TEL 045-591-1995
印刷／有限会社 田丸文林堂

花の里づくりの会 案内図

